

From JPMA

患者さんに新たな価値をもたらすために、医療ビッグデータ利活用をいっそう推進

個々の患者さんに最適な医薬品が提供される医療を実現するために、医療健康分野のビッグデータ利活用の推進は、私たち製薬産業も主体的に取り組むべき重要な課題と考えています。

医療ビッグデータは、創薬標的やバイオマーカー探索等の創薬研究から市販後の医薬品にかかわる安全性情報のモニタリング等、製薬産業のバリューチェーン全般にわたって幅広い利活用が期待され、実際その取り組みが始まっています。さらに今後は、単に従来の医薬品のバリューチェーンでの活用にとどまらず、IT企業をはじめとする異業種との融合により、健康医療、介護支援のソリューション提供等への展開も期待されています。

信頼性の高いさまざまなデータが統合され、それを医療現場や行政、アカデミアのみならず、産業を含むさまざまなステークホルダーが幅広く活用することにより、健康や医療の質の向上を通じて、患者さんや国民にとって新たな価値がもたらされるものと確信しています。

(3月12日 製薬協 政策セミナーより)



日本製薬工業協会
会長 畑中 好彦

日本製薬工業協会 (製薬協)

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者参加型の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会(IFPMA)の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。

新薬の開発を通じて社会への貢献をめざす 日本製薬工業協会